

●一斉学習
■児童生徒実践型

実践タイトル 映像に合わせて郷土の舞踊を演奏表現する

本時のねらい

郷土の音楽に親しみ、「こきりこ」や「ささら」を楽しんで演奏する。DVD教材を視聴することで、楽器は演奏だけでなく舞踊の一部にもなっていることを理解できるようにする。動画を視聴することによって郷土に伝わる音楽の特徴を比べたり、よさを見つけたりさせる。

主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等とそのねらい

電子黒板

- ・「こきりこ節」が伝わる富山県の位置を日本地図で確認させるために、音楽教科書会社のサイトにあるWeb教材を拡大提示した。
- ・臨場感を味わわせるために、「こきりこ節」の動画を映し、児童がすぐ前で舞踊できるようにした。

動画

本物の楽器の演奏方法や舞踊の様子を理解させるために、市販DVD教材を活用した。

参考にしてほしいポイント

音楽の鑑賞教材は、通常は、演奏をCD等で聴いて想像したり教科書等の写真資料で楽器を理解したりすることが多い。しかし、本単元で活用したDVD教材は、祭りの様子や演奏・お囃子などが収録され、児童にとって理解しやすいものであった。DVD教材の映像を電子黒板に映し出すことは、準備や場の設定が容易であり、視覚的な理解をしやすいので、特別支援学級だけでなく、さまざまな学級や学校で活用することができる。

学習の流れ(分)	主な学習活動と内容	ICT機器・教材、コンテンツ等	
本時の展開	導入 0 10	○本物の「こきりこ」や「ささら」は、どのように使うのかを予想する。 ・「こきりこ」や「ささら」を見たり動かしたりする。 ・「こきりこ」や「ささら」の音を出す。	・「こきりこ」 ・「ささら」 (写真1・2)
	展開 40	○「こきりこ節」という民謡でこきりこやささらが用いられることを知る。 ・「こきりこ節」は、富山県の民謡 ・富山県の位置を日本地図で確認 ○「こきりこ節」を聴く。 ・音楽に合わせて予想しながら、「こきりこ」と「ささら」を鳴らす。 ○「こきりこ節」の映像を視聴し、舞踊であることを知る。 ・映像を見ながら「こきりこ」と「ささら」を鳴らす。 ・踊りをつけて演奏する。	・電子黒板 ・Web教材「音楽しらべ隊『郷土の音楽』」(教育芸術社) ・観賞用CD小学校4年「こきりこ節」(教育芸術社) ・電子黒板 ・DVD教材「平成17年度版教芸小学生の音楽鑑賞・表現DVD4年」(教育芸術社) (写真3)
	まとめ 45	○「こきりこ」や「ささら」を使ったことや「こきりこ節」を演奏したことの感想を発表する。	



写真1: 「こきりこ」を見たり音を出したりしてみる



写真2: 「ささら」の使い方を予想する



写真3: 映像を見ながら「こきりこ」と「ささら」を鳴らす

児童生徒の反応

本学級には、肢体不自由からくる動作の困難により、楽器を演奏することに戸惑いのある児童がいる。「こきりこ」や「ささら」という初めて手にする楽器に児童が興味を持てるのかという点で、指導する側としても実践をするまでは確信を持てずにいた。しかし、実際に手にして演奏方法を予想した後、動画で確かめたことは、児童にとって分かりやすい学習の流れだったと考える。つまり、児童にとって楽器の正確な演奏方法を繰り返し見ることのできる活動であった。また、郷土の音楽を初めてCDで聴いた時に「昔っぽい、古っぽい」と話していた他の児童が、映像を視聴したり演奏したりすることで、「昔のものにも、いいものがある」と気付くことができた。これは、郷土に伝わる歌やおどりを過去のものとして終わらせるのではなく、次の世代へつなげていく姿勢の礎になるものであると考える。

活用効果

評価の観点	感受・表現の工夫
具体的変容	日本の音楽の視聴を通して、その土地土地に伝わる独特の表現方法があることに気付き、演奏者の一員として音楽を楽しむことができた。映像の中の演奏者の身体の動きを真似て、身体の使い方を考えたり、楽器の音を出すタイミングを合わせたりすることができていた。

実践の手応え

音楽の学習で電子黒板を活用したのは本単元が初めてだったが、特別支援学級の児童にとって視覚的に理解をすることのできる手段であった。4年生の社会科では日本地図の学習をするので、電子黒板に映った日本地図を見ることで、どの都道府県に伝わる音楽であるのかを土地と結びつけて学習することができた。郷土の音楽の単元は、鑑賞教材としてCD等で聴くことが多い。しかし、映像や音声を視聴することで衣装や楽器にも特徴があることに気付き、郷土をより理解することにつながった。また、肢体不自由の児童が理解をしやすいように動画を一時停止機能で止めた状態で、説明をした。何よりも大型テレビの前での視聴は、児童に臨場感を味わわせることができてよかった。